

ごあいさつ

皆様には、平素より東和銀行をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

本年も、当行に対するご理解を一層深めていただくために、ディスクロージャー誌「東和銀行レポート平成26年3月期」を作成いたしました。本誌では、平成25年度の業績を中心として、できるだけ詳しく紹介させていただいておりますので、ご参考にしていただければ幸いに存じます。

平成25年度のがわが国経済は、日銀による異次元の金融緩和が実施されたことにより、円高是正による企業収益の改善や株価上昇などによる資産効果から個人消費が上向き、内需を中心として景気回復の動きが広がりました。加えて、公共投資の下支えや、デフレ脱却局面が明確になっていくにつれて、企業マインドの改善による設備投資が増加し、消費税増税前の駆け込み需要も手伝って、景気は緩やかな回復が続きました。

このような経済状況のもと当行は、平成24年4月から平成27年3月までの3年間を計画期間とする経営強化計画「プランフェニックスⅢ」に基づき、地域から頼られる銀行を目指し、「靴底を減らす活動」、「雨でも傘をさし続ける銀行」、「謙虚さのDNAを忘れない銀行」をモットーとして、お客様の本業支援に全役職員が全力で取り組んでまいりました。

お客様の本業支援では、販路拡大や商品紹介等のビジネスマッチングを全店で展開するとともに、群馬大学や前橋工科大学との共同研究や関東経済産業局・中小基盤整備機構などと連携したものづくり補助金や創業者補助金などの各種補助金申請アシスト、関東経済産業局や北関東産官学を介した大手企業との技術連携紹介、大手食品系・大手工業系バイヤーとの商談などの提案活動に取り組んでまいりました。この他、医療関連チームなどによる成長分野支援活動、次世代経営塾や公認会計士・税理士等の外部専門家との連携による事業承継・相続等相談活動、知的財産等支援活動につきましても、着実に実績が出ております。

また、海外進出支援活動につきましては、ネットワークの拡充として、アジア地域の金融機関6行・海外向けリース会社2社と新たな業務提携を行うとともに、JICA（国際協力機構）、JETRO（日本貿易振興機構）、JBIC（国際協力銀行）、日本政策金融公庫などとも連携を行い、お客様がワンストップで海外進出が図れるようなサポート体制を強化しております。

このような、お客様支援活動を積極的に展開した

結果、平成25年度の預金残高は、前年同期比370億円増加し、1兆7,711億円となり、貸出金残高についても、同232億円増加し、1兆3,025億円となりました。特に事業性貸出先数は、取引先紹介運動の効果もあり、約2,000社の新規事業所先を開拓したことから、前年同期比856先の増加となり、経営強化計画「プランフェニックスⅢ」開始からの2年間で1,568先の増加が図られております。

また、平成25年度の収益状況につきましては、中小企業向け貸出を中心とした貸出金残高が増加し資金利益が増加したことに加え、投資信託の販売等により役務取引等利益も増加したことから、コア業務純益113億円、経常利益119億円、当期純利益126億円と過去最高益を計上することが出来ました。

このような預貸金残高や事業性貸出先数の増加、収益力の向上は、当行役職員が一丸となって取り組んできた靴底を減らしたお客様回りの徹底とお客様の本業支援の活動を評価していただいたものと考えております。

群馬県と埼玉県の2つの無尽会社を起源としている当行は、これからも「謙虚さのDNA」を肝に銘じ、今まで以上にお客様回りを徹底し、適切な情報提供や円滑な資金供給に努め、お客様の本業支援活動を継続することで、地域社会の発展、活性化に貢献してまいりますので、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成26年7月

株式会社 東和銀行
代表取締役頭取

吉永國光